

湖西大学校への交換留学 月例報告書(11月分)

留学先大学:湖西大学校 氏名:村松果歩

◎留学生活のコツについて

1年の交換留学も終わりが近づいてきました。今まで学校の授業や行事についてレポートを書いてきましたが、今月は特にイベントがなかったので、留学中の個人的なお話をしていきたいと思います。

まず私は留学に必要な費用を自力で集めました。もともと借りていた第二種奨学金の増額に加え、協定留学で利用可能な奨学金、そして自分がアルバイトで稼いだお金で賄いました。留学中に少し親の助けも借りましたが、自分のお金で来たということが、私の留学生活に大きな影響をもたらしている気がします。

学校の授業はもちろん、行事、日々の生活等、ひとつひとつに責任感を持って行動してきました。私の場合、その要因がお金でしたが、何か一つ、自分が責任を持てる要素を持って留学に来ると他の学生と意識の差が生まれると思います。

次に、学校での生活についてです。もちろん必要最低限のサポートはしてもらえますが、友達を作ったりするには本人の積極的な行動が不可欠です。1学期は生活することに精一杯で、新しい友人を作るところまで意識が向きませんでした。しかし、2学期には心の余裕が生まれ、開講総会を期に同じ学科の友人ができ、またその友人を紹介してもらったり誘われた約束に必ず参加したりするなど積極的に行動してきました。おかげで、多くの人と関わることができ、より一層韓国語を使う機会、生の韓国語に触れる機会が増えたと感じています。

加えて、韓国語を話す、ということが自分の中でデフォルトになり、なんでも話してみようという積極性が生まれました。今までは内向的な性格で臆病な部分が多かったのですが、いい意味で“外国人だから失敗しても恥ずかしいことじゃない”と思えるようになりました。

最後に、友人との過ごし方についてです。会話をする際に、今までは分かったフリをして過ごしていた部分があったのですが、親しくなるにつれて、分からないことを聞けるようになりました。会話の中で知らない単語や文が出るたびに、「それってどういう意味?」「今なんて言った?」と質問したり、翻訳機に打ってもらったりしてひとつひとつメモするようにしました。友人たちは親切に説明してくれて、似た単語やリアルな表現も教えてくれるので、韓国語を韓国語で学ぶという経験にもなり、

実力が伸びていくのを感じています。

ひとつひとつの内容は些細なことではありますが、こういった部分を意識するだけでも留学生活がより有意義で豊かなものになるのではないかと思います。

今学期の終わりも近づいてきたので、最後まで悔いのない生活を送りたいと思います。



